

麻生久 總論 社會運動家、小説家。明治二十四年五月二十四日大分縣
 生れ、昭和十五年九月七日歿（二八九—一九四〇）。筆名麻山改介。大正六
 年東京帝國大學法科大學佛法科卒。東京日日新聞記者を経て、八
 年友愛會本部に入る。翌年全日本鑛夫總聯合會創設、日本社會主義同
 盟發起人、十五年二回壽壯等と日本労働党結成、昭和七年社會入教黨
 書記長、十一年衆議院議員、十五年新體制準備委員も急死。評論家麻
 生良方の父。

著書『過激派』（麻生改介名、黒田禮一片島 新共著・石川六郎編、大正八年
 六月十八日民友社「新時代叢書」）、『労働運動者の心と口言』（大
 正十年四月十日大鏡閣「近世社會思想叢書」）、『人生を横ぎる者』
 （大正十四年二月十日新光社）、『普選（選）第一戰陣我等斯く戦へり』（合著、
 昭和二年二月八日朝日新聞社「朝日民教講座」）、『濁流の泳ぐ』（昭
 和五年五月十五日改造社）、『社會主義の語』（昭和五年十一月二十
 五日誠文堂「誠文堂千錢文庫」）、『父よ悲む勿れ』（昭和五年十一
 月二十五日先進社）、『革新政治綱要論（片山哲合著、昭和十一年
 十一月二十日人文社「國策大衆講座」）、『往年の學風』（合著・朝
 日新聞社編、昭和十五年八月二十日
 朝日新聞社）等。

